第三講　『落窪物語』　関西学院大学

次は『落窪物語』の一節である。継母にいじめられている落窪の君のもとに、ひそかに右近の少将が通い始めた。数日通った後、内裏に出仕したために姫君を訪問できなかった右近の少将は、お詫びの手紙を贈った。これを読んで、後の問に答えなさい。

その夜は内裏に参り給ひて、えおはせず。①つとめて御文あり。「昨夜（よべ）は内裏に参りてなむ、え参り来ずなり。いかに、*あこぎ、*惟成勘当（これなりかんだう）侍りけむと思ひやりしもをかしうこそ。さがなさは②誰（た）がを習ひたるにかと思ふにも、恐ろしうなむ。今宵は③「昔はものを」となむ。

さらでこそそのいにしへも過ぎにしを一夜経にけることぞかなしき

つつましきことのみ多う a思されためる世は離れ給ひぬべしや。④心やすき所求めてむ」とこまやかに聞こえ給へり。

「御返り早（は）や」とて、「持て参らむ」と帯刀（たちはき）聞こゆ。⑤御文を、あこぎ見て笑ふ。「わろう語り申してけり」と、「言ふべき人のなきままにこそ、*いさかはれ侍れ」と言ふ。

「昨夜は、*まだき時雨（しぐ）るる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一筋に思ふ心はなかりけりいとど憂き身ぞわく方もなき

まこと、「⑥憂き世は門(かど)させりとも」と言ふやうに出でがたくなむ。あこぎは、罪あらむ人は怖ぢ給ひぬべかめり」とあるを持ちて出づるほどに、「*蔵人(くらうど)の少将、まづ b召す」と言ふめれば、え置きあへで懐にさし入れて参りたり。御鬢(びん)参らせ給はむとてなりけり。御後ろを参るとて、君もうつ伏し我もうつ伏したるほどに、懐なる文の落ちぬるもえ知らず。少将見つけ給ひて、ふと取り給ひつ。御鬢掻き果てて入り給ふに、⑦いとをかしければ、*三の君に「これ見給へ。惟成が落としたりつるぞ」とて c奉り給ふ。「⑧手こそいとをかしけれ」とのたまふ。「落窪の君の手にこそ」とのたまふ。少将、「とは誰をか言ふ。⑨あやしの人の名や」。「さ言ふ人あり。物縫ふ人ぞ」とてやみぬ。三の君は、文取り給ひて、あやしと思ひ居給へり。

帯刀、御泔(ゆする)の調度など取り置きて、立つとて掻い探るに、なし。心騒ぎて立ち居振るひ、紐解きて求むれど、絶えてなければ、いかになりぬらむと思ひて、顔赤めて居たり。ここよりほかに歩(あり)かねば、落つともここにこそあらめとて、御座(おまし)をまづ取り上げて振るへども、いづこにかあらむ。人や取りつらむ、いかなること出で来むと思ひ嘆きて、頬杖(つらづゑ)をつきてほれて居たるを、少将出づとて見給ひて、「など惟成はいたうしめやぎたる。物や失ひたる」とて笑ひ給ふに、この君取り隠し給へるなめりと思ふに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

死ぬる心地す。⑩いとわりなげなる気色にて「いかで賜はり侍らむ[d]」と申せば、「我は知らず。⑪姫君こそ「*末の松山」と言ひつめれ」とて出で給ひぬ。

言はむ方なくて、あな若（わか）、と思はむこと恥づかしけれど、いかがはせむとて、あこぎがもとに行きて、「ありつる御返り、みづから参らむに持て参らむとて出でつるほどに、しか召して御鬢掻かせ給へるほどに、かうして取られ奉りぬ。いといみじうこそ」と我にもあらぬ気色にて言へば、あこぎ、「いといみじきことかな。いかなる⑫ののしり出で来むとすらむ。⑬いとどしく、この御方気色ありと疑ひ給ふものを、⑭いかに騒がれ給はむとすらむ」と、二人、汗になりていとほしがる。

三の君、この文を北の方に「しかじかしてありつる」とて見せ奉り給へば、「さればよ。気色ありと見つ。誰ならむ。帯刀が住むにやあらむ、そが持たりつらむは。「迎へむ」と言ひたるにこそあめれ、⑮「出でがたし」と言へるは。男逢はせじとしつるものを、いとくちをしきわざかな。男出で来なば、かうてよにあらじ。迎へむ。⑯なくては大事（だいじ）なり。よき吾子（あこ）たちの使ひ人と見置きたりつるものを。いかなる盗人のかかるわざをし出でつらむ。まだきに言はば隠し惑はむものぞ」。この文も出ださせで気色を見るに、人も言ひ騒がねば、あやしう思ふ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注）

＊あこぎ…落窪の君の女房。継母に命ぜられて、継母の実の娘である三の君にも仕える。帯刀の恋人。

＊惟成…帯刀の本名。蔵人の少将に仕える。右近の少将の乳母の子で、あこぎの恋人。落窪の君に右近の少将を手引きする。

＊いさかはれ侍れ…あこぎが帯刀と、自然と言い争ってしまう、ということ。

＊まだき時雨るる…「わが袖にまだき時雨の降りぬるは君が心にあきや来ぬらむ」（『古今集』恋五）を踏まえる。

＊蔵人の少将…継母の娘である三の君の夫。

＊三の君…継母の娘。落窪の君の異母姉妹。

＊末の松山…「君をおきてあだし心をわが持たば末の松山波も越えなむ」（『古今集』東歌）を踏まえる。

問一　傍線部①・⑧・⑫・⑬の語句の意味として、最も適当なものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選べ。

①「つとめて」

イ　一生懸命　　ロ　宿直先から　　ハ　仏道修行の折

ニ　努力して　　ホ　翌朝

⑧「手」

イ　腕　　ロ　奏法　　ハ　てのひら

ニ　筆跡　　ホ　縫い方

⑫「ののしり」

イ　大騒ぎ　　ロ　派手な振舞い　　ハ　罵倒

ニ　乱暴　　ホ　悪口

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑬「いとどしく」
イ　あまりにも　　ロ　そのまま　　ハ　性悪にも
ニ　何度も　　ホ　ますます

問二　傍線部②「誰がを習ひたるにか」の現代語訳として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　誰の奥ゆかしさを見習ったのか
ロ　誰の性悪振りを見習ったのか
ハ　誰の裁縫の技術を習ったのか
ニ　誰かが習い事をしているのか
ホ　誰が習っているのか

問三　傍線部③「『昔はものを』となむ」の「昔はものを」とは「逢ひみての後の心にくらぶれば昔はものを思はざりけり」（『拾遺集』恋二・藤原敦忠）という歌の一節である。これを踏まえて、傍線部③の解釈として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　あなたと逢えなくなるかもしれないと思うと、まだあなたを知らなかった幸せな時間が懐かしいくらいだ
ロ　あなたと逢う前の悩みに比べれば、今夜だけあなたに逢えない悩みなどたいした苦しみとはいえないほどだ
ハ　あなたにまた逢える日までの時間は、これまで味わった事がないくらいに新鮮で、まことに楽しみなことだ
ニ　あなたに逢った後に逢えない夜を過ごす物思いの深さは、これまでの物思いなど取るに足らないほどだ
ホ　あなたに逢っても思いが伝わらず苦しむくらいならば、いっそもともと逢えなかった方がよかったくらいだ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　二重傍線部ａ「思さ」、ｂ「召す」、ｃ「奉り」、ｄ「侍ら」は誰に対する敬意を表しているか。次のイ〜トから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選べ（同じ符号を何回用いてもよい）。

イ　落窪の君　ロ　右近の少将　ハ　あこぎ　ニ　帯刀（惟成）
ホ　蔵人の少将　ヘ　三の君　ト　継母

ａ＝　ｂ＝　ｃ＝　ｄ＝

問五　傍線部④「心やすき所求めてむ」の現代語訳として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　縁のある場所に世話になろう
ロ　安心して泊まれる宿を見つけよう
ハ　静かな寺院に身を隠そう
ニ　気兼ねのいらない所を探そう
ホ　立派な御殿に移り住もう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部⑤「御文を、あこぎ見て笑ふ」とあるが、あこぎはなぜ笑ったのか。その理由として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　少将があこぎをわざと悪者にしているから
ロ　少将があこぎにひたすらに追従しているから
ハ　少将があこぎをひそかに恋慕しているから
ニ　少将があこぎに期待をこめて要望しているから
ホ　少将があこぎに救いをもとめているから

問七　傍線部⑥「憂き世は門させりとも」とは「憂き世には門鎖（さ）せりとも見えなくになどかわが身の出でがてにする」（『古今集』雑下・平貞文）という歌の一節である。これを踏まえて、傍線部⑥の解釈として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　つらい思いをするこの家は門が固く錆び付いてしまったように
ロ　つらい思いをするこの家は門が堅く閉ざされているため
ハ　つらい思いをするこの家は門に鍵がかかっているわけではないのに
ニ　つらい思いをするこの家は門に鍵がかかっているので
ホ　つらい思いをするこの家は門の外の世界に幸福な未来があるから

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部⑦「いとをかしければ」とは誰のどのような気持ちか。最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　三の君の、髪を整えた蔵人の少将に心惹かれる気持ち
ロ　帯刀の、右近の少将の美貌に感動する気持ち
ハ　帯刀の、三の君の反応に期待を抱く気持ち
ニ　蔵人の少将の、髪を結えて満足する気持ち
ホ　蔵人の少将の、手紙に関心を抱く気持ち

問九　傍線部⑨「あやしの人の名や」とは、誰が、どのように思った上での発言か。最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　蔵人の少将が、意外な宛名の手紙に驚いた発言
ロ　蔵人の少将が、変な名前に興味を抱いた発言
ハ　蔵人の少将が、三の君の呼ばれ方を不快に思った発言
ニ　右近の少将が、怪しい呼び名に敏感に応じた発言
ホ　右近の少将が、落窪の君のことを疑った発言

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　傍線部⑩「いとわりなげなる気色」とは誰のどのような様子か。最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　あこぎの、心底怒った様子
ロ　あこぎの、どうにも焦った様子
ハ　三の君の、今にも泣きそうな様子
ニ　帯刀の、実に粗暴な様子
ホ　帯刀の、まことに切迫した様子

問十一　傍線部⑪「姫君」とは誰だと考えられるか。最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　落窪の君　　ロ　あこぎ　　ハ　継母　　ニ　三の君　　ホ　蔵人の少将の娘

問十二　傍線部⑭「いかに騒がれ給はむとすらむ」の現代語訳として、最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　どれほど落窪の君が、騒がれなさることになるでしょう
ロ　どれほど右近の少将が、騒がれなさることになるでしょう
ハ　どれほど三の君が、大騒ぎなさることになるでしょう
ニ　どれほど継母が、大騒ぎなさることになるでしょう
ホ　どれほど継母が、落胆なさることになるでしょう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十三　傍線部⑮「『出でがたし』と言へるは」と言ったのは、どのように推測しているからか。最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　落窪の君が「出られない」と答えているのは、男に対して愛情がないからだろう、と推測しているから。
ロ　落窪の君が「出られない」と答えているのは、継母が夫として男を迎えるつもりだろう、と推測しているから。
ハ　落窪の君が「出られない」と答えているのは、男が自分の邸に迎えようと言ったからだろう、と推測しているから。
ニ　落窪の君が「出られない」と答えているのは、継母の家での暮らしに愛着があるからだろう、と推測しているから。
ホ　落窪の君が「出られない」と答えているのは、男がまた訪ねて来ようと言ったからだろう、と推測しているから。

問十四　傍線部⑯「なくては大事なり」の具体的な内容説明として、最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　もし落窪の君が失望して亡くなりでもしたら、夫に知られた時に一大事だ
ロ　もし落窪の君がいなくなったら、裁縫のできる人がいなくなるから大変だ
ハ　もしこの手紙を無くしたら、落窪の君の体面を傷つけることになるから一大事だ
ニ　せっかく通って来始めた落窪の君の夫が来なくなったら、重大な問題だ
ホ　継母の北の方がいなくなっては、一家の切り盛りができなくなるから、この問題は重要だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十五　問題文の内容と合致するものを次のイ〜トから二つ選べ。

イ　落窪の君は、継母に叱られるのを恐れて、右近の少将に対してつれなく振舞っている。
ロ　落窪の君は、継母の苛めから逃れるためならば、どこにでも逃げたいと思っている。
ハ　右近の少将は、継母に苛められている落窪の君のことを内心侮りつつも哀れんでいる。
ニ　蔵人の少将は、帯刀が右近の少将の手紙を無くして動揺しているのを見て、楽しんでいる。
ホ　あこぎは、落窪の君と右近の少将との関係が継母に知られることを恐れている。
ヘ　帯刀は、手紙を無くしたことを、あこぎに馬鹿にされないかと懸念している。
ト　継母は、落窪の君がひそかに夫を得ていたことを知ってほっとしている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

① 「坤（ひつじさる）のかた」が表している方角を、次の中から一つ選べ。

イ　南西　　ロ　南東　　ハ　西南西　　ニ　東南東　　ホ　南南西

② 「中ならん物」の「なら」と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　心に思ふことを見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。（『古今和歌集』）

ロ　この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）

ハ　三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり（『土佐日記』）

ヘ　物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな（『和泉式部集』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「しばし、みななつかはしそ」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　しばらくの間、すべてでなくてもお与えください
ロ　しばらくの間、全部は差し上げないでおきましょう
ハ　しばらくの間、みんな送り返してしまいましょう
ニ　待ってください、すべてお与えしてはいけません
ホ　待ってください、みんな差し上げてもかまいません
ヘ　待ってください、全部お返しにならないでください

④「方違へよ」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　唐土の方角（西）へ行きなさい
ロ　吉方の所（家）に行きなさい
ハ　出発の儀式を行いましょう
ニ　行く方角を間違えないようにしなさい
ホ　撫子の咲いている方角へ行きましょう

⑤「春の事ども取りいそぎ」とは、どういうことを表しているか。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　新年の挨拶まわり　　ロ　歳末の取り立て　　ハ　正月祝いの準備
ニ　衣替えの準備　　ホ　婚礼の準備

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第三講】

〈模範解答〉

問一　①ホ　⑧ニ　⑫イ　⑬ホ　**問二**　ロ　**問三**　ニ
問四　a イ　b ホ　c へ　d ホ　**問五**　ニ　**問六**　イ
問七　ハ　**問八**　ホ　**問九**　ロ　**問十**　ホ　**問十一**　ニ
問十二　イ　**問十三**　ハ　**問十四**　ロ　**問十五**　ホ、へ

〈現代語訳〉

その夜は（右近の少将は）内裏に参上なさって、（落窪の君のところには）おいでになることができなかった。翌朝（右近の少将から落窪の君に）お手紙がある。「昨夜は内裏に参上しまして、（そちらには）参上できませんでした。どんなに、あこぎが、惟成を責めたことでしょうかと想像するのもおかしく思います。（あこぎの）きつい性格は誰の性悪振りを見習ったのかと思うにつけても、恐ろしくて。今夜は『昔はものを』の歌に詠まれた心境です。

さらでこそ…＝あなたに逢わないでもその歌の通り「昔」は平気で時間が過ぎたものですが、（あなたに逢ってしまった今は）逢わずに一晩過ごすことが悲しく感じられることです。

遠慮がちなことを多くお思いになってばかりいらっしゃるような境遇はもはやお離れになるのがよいのではないですか。気兼ねのいらないところを探しましょう」と細々としたことまで（落窪の君に）申し上げなさる。

「お返事を早く」と言って、「持って参りましょう」と帯刀は（落窪の君に）申し上げる。（右近の少将の）お手紙を、あこぎは見て笑う。「（あなたは私のことを）性格がよくないというようにお話し申し上げたのですね」と言い、「話せる人がいないので、あなたと自然と言い争ってしまうのです」と言う。

（落窪の君の返事は）「昨夜は『まだき時雨るる』の歌（＝おいでがないのであなたに飽きられてしまったのかと悲しんでおり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ました」の心境でした。

一筋に…＝一途に私を思ってくださるお気持ちはなかったのだなあと思い、ますます憂鬱な私の身はどうしたらよいのかわかりません。

本当に、『憂き世は門させりとも』という歌にあるように（私はこの邸を）出にくいのです。あこぎは、『罪がある人は（私を）きっとこわがりなさるようです』（と言っていますよ）」と（書いて）あるのを（帯刀が）持って出たときに、「蔵人の少将が、まず（帯刀を）お呼びです」と言うようなので、（落窪の君から右近の少将にあてた返信を）どこか（安全なところ）に置くことができないまま懐に急いで入れて（蔵人の少将のところに）参上した。（蔵人の少将は）御髪を結わせなさろうとして（帯刀を呼びつけたの）であった。御後ろ（の髪）を結って差し上げるというので、蔵人の少将もうつむきになり帯刀もうつむいているときに、（帯刀の）懐にある手紙が落ちたの（だが、帯刀はそれ）を知ることもできないでいた。（蔵人の）少将が（手紙を）見つけなさって、ふと拾い上げなさった。御髪を結い終わって（三の君の部屋に）お入りになって、（この手紙が）興味深いので、三の君に「これを御覧なさい。惟成が落としたのだ」と言って（三の君に）差し上げなさる。「筆跡がとても風情がある」と（蔵人の少将は）おっしゃる。「（落窪の君の筆跡ですね」と（三の君が）おっしゃる。（蔵人の）少将は、「（落窪の君）とは誰の事を言うのか。変な人名だなあ」（と言う。）「そういう人がいるのです。裁縫をする人です」と（三の君が）言って（その話は）終わった。三の君は、手紙をお持ちになって、妙なことだと思って座っていらっしゃる。

帯刀は、髪をすくのに用いた水の入れ物などを片づけて、立つときに（懐を）探ったところ、（落窪の君から預かった返信が）ない。胸騒ぎがして立ったり座ったりして体を振り払い、（衣服の）紐を解いて探すが、まったく見つからないので、どうなってしまったのかと思って、赤面して座っていた。ここよりほかに歩いたところはないので、落としたとしてもここにあるだろうと思って、御敷物をまず取り上げて振ってみるのだが、どこにあろうか、あるはずがない。人が取ったのだろうか、どのようなことが起こるだろうかと嘆かわしく思って、頬杖をついて呆然として座っているのを、（蔵人の）少将が外出しようとして御覧になって、「どうして惟成はたいそうしょんぼりしているのか。何かをなくしたのか」と言ってお笑いになるので、この方が（手紙を）拾って隠していらっしゃるようだと思うと死にそうな気持ちがする。（帯刀は）まことに切迫した様子で「なんとかして（手紙を返して）いただきとうございます」と申し上げると、「私は知らない。三の君が『末の松山』（＝帯刀があこぎから落窪の君

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

へと心を移した」という歌を言っていたようだ」と言って出て行かれた。

言いようもなくて、なんと未熟な、と（あこぎが）思うであろうことが身が縮まる思いだが、どうしようもないと思って、あこぎのもとに行って、「さっきのご返信を、自分が（右近の少将のところに）参上するときに直接持って参ろうと思って出たときに、（蔵人の少将が）このようにお呼びになって御髪を結わせなさっているうちに、こういう次第で取られ申し上げてしまった。たいそう困ったことだ」と正気を失った様子で言うと、あこぎは、「とても困ったことです。どんな大騒ぎが起こることでしょう。ますます、（北の方は）落窪の君に（男が通ってきている）様子があると疑っていらっしゃるのに、どれほど（落窪の君が）騒がれなさることでしょう」と、二人は、冷や汗をかいて（落窪の君を）気の毒がる。

三の君は、この手紙を北の方に「こういう次第で手に入ったものです」と言ってお見せ申し上げなさると、「思った通りだ。（男が通う）様子があると思っていた。（相手の男は）誰であろうか。帯刀が通っているのであろうか、帯刀が持っていたということは。（落窪の君を）『（自邸に）迎え入れよう』と言ったのであろう、『邸を出にくい』と（落窪の君の手紙に）書いてあるということは。結婚させないようにしようとしていたのに、ひどく残念なことだよ。男が出来たならば、決してこんなふうにしてはいないだろう。（男は落窪の君を）迎え取るだろう。（もし落窪の君が）いなくなったら（裁縫のできる人がいなくなるから）大変だ。かわいい我が子たちの召使いと決めていたのに。どんな盗人がこんなことをしたのだろうか。早く騒ぎだせば（男は落窪の君を）慌てて隠すだろうよ」（と言う）。（北の方は）この手紙も出させないで（騒ぎたてることもせず、落窪の君の）様子を見ているので、誰も騒ぎ立てないので、（あこぎや帯刀は）変だと思っている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○つとめて…①**早朝**。　②**翌朝**。

○さがなし…①**意地が悪い**。　②口が悪い。　③**いたずらだ**。

○つつまし【慎まし】…①**遠慮される**。　②**恥ずかしい**。

○こころやすし【心安し】…①**安心だ**。　②親しい。　③簡単だ。

○まだし【未だし】…①**まだ早い**。　②**未熟である**。

○いとど…①**ますます**。　②そのうえさらに。

○すむ【住む】…①居住する。　②**夫として女のもとに通う**。

○あふ【逢ふ】…①出会う。　②適合する。　③**男女が契る**。**結婚する**。　④対抗して争う。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 古文常識問題。干支で「方角」や「時間」を表す。坤は南西。よって、正解はイ。方角の確認をしておくと、「子」＝「北」、「丑寅（艮）」＝「北東」、「卯」＝「東」、「辰巳（巽）」＝「南東」、「午」＝「南」、「未申（坤）」＝「南西」、「酉」＝「西」、「戌亥（乾）」＝「北西」である。

② 「なり」の識別。設問の「なら」は「存在」の「なり」。よって、「なり」の上が「西」と方角（場所）になっている口が正解。

③ 「な〜そ」は「〜するな・〜しないでくれ」の意味。禁止の選択肢はニとへだが、やわらかい禁止のニュアンスはへ。さらに「つかはす」は「派遣する」・「与ふ」の尊敬語、もしくは、尊敬の意味を失い「派遣する」の意味の単語。ここでは「与ふ」の尊敬語で、「おやりになる」（＝「お返しになる」）の意味。選択肢ニの「お〜する」は謙譲の訳し方で、「つかはす」には謙譲語の意味はないので×。よって、正解はへ。

④ 古文常識問題。「方違へ」は、天一神（なかがみ）などのいる方角を避けること。行く方角がこれに当たると災いを受けると信じ、前夜吉方の家に泊まり、そこから方角を変えて目的地に行った。よって、正解は口。

⑤ 古文常識問題。「春」は「一月〜三月」。「春のいそぎ」や「春のまうけ」とは、「正月の準備」のこと。よって、正解はハ。

〔解答〕

①イ　②ロ　③へ　④ロ　⑤ハ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。